

琉球大学学術リポジトリ

第4章教員調査から見たFD等に関する分析

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学大学教育センター 公開日: 2018-07-17 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 天野, 智水, Amano, Tomomi メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41692

第4章 教員調査から見たFD等に関する分析

天野智水（大学教育センター）

(1) オフィス・アワー

ここでは講義担当者に限って回答を求めた、オフィス・アワーに関する設問の結果を示す。まず、自身の授業のオフィス・アワーが「どの程度受講生に周知されている」と思うかについては、回答者数の7割弱が「よく周知されている」あるいは「ある程度周知されている」と回答している。この回答を所属学部ごとにみると、特に工学部所属の教員が周知状況を積極的に評価していた（図4-1）。

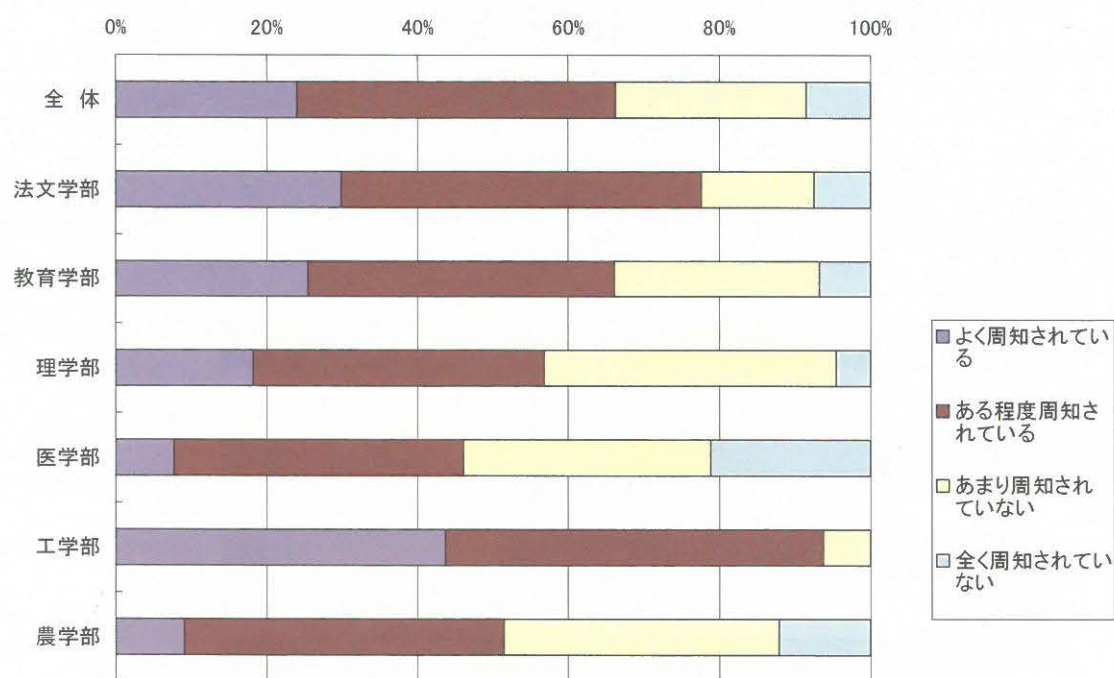


図4-1 オフィス・アワーの周知状況

注：無回答を除いて算出したもの。以下の図も同じ。

オフィス・アワーの利用人数（年間平均）について、共通教育、学部専門教育、大学院教育別にみたところ（図4-2）、学部専門教育について最も活発に利用されており、共通教育については6割以上の教員が利用実態のないことを回答している。

学部専門教育についてのオフィス・アワー利用人数を学部別にみたものが図4-3である。上記の周知状況と整合的で、工学部は利用実態なしとする回答割合が低い。また、法文学部と教育学部については、15名以上が利用していると回答する教員の割合が比較的高い。

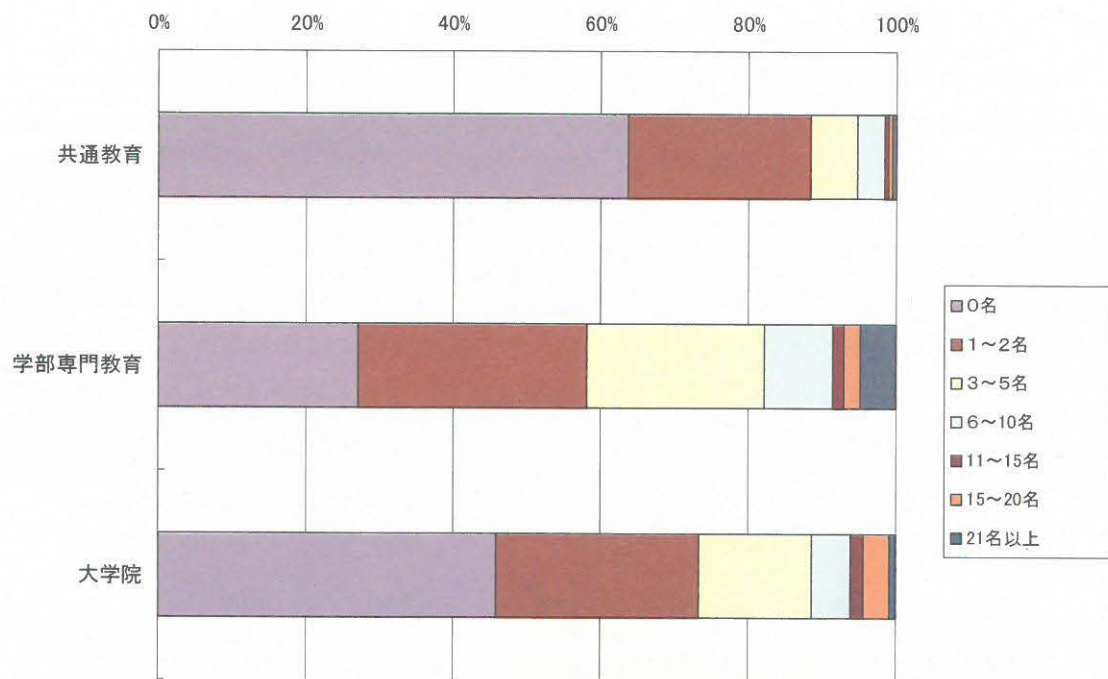


図 4-2 オフィス・アワー利用人数 (教育段階別)

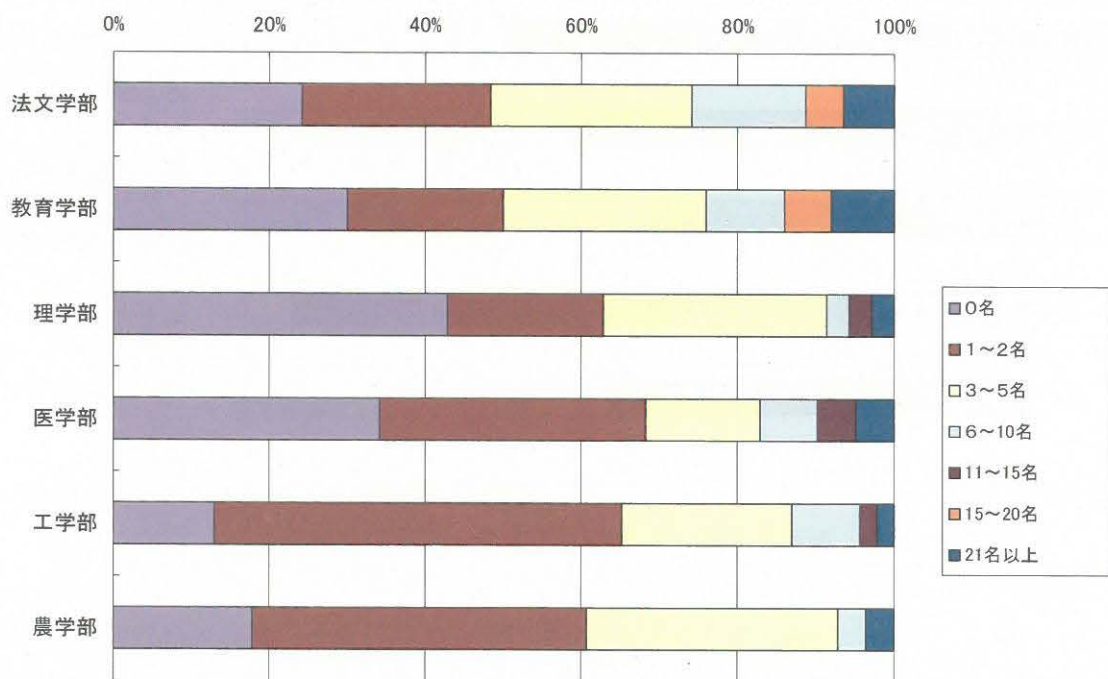


図 4-3 オフィス・アワー利用人数 (学部別)

(2) シラバス

講義担当者を対象にシラバスについて尋ねた結果を図 4-4 に示す。学部の授業科目につい

ては多くの教員が Web 上でシラバスを登録・公開しており，評価基準，授業計画，オフィス・アワーを記載していることが分かる。

学部授業シラバスの登録・公開状況，シラバスへの評価基準記載状況，そして同じく授業計画の記載状況について，それぞれ学部別にみたものが図 4-5～4-7 である．全般的に，工学部および農学部の積極的な取組みが目立っている。

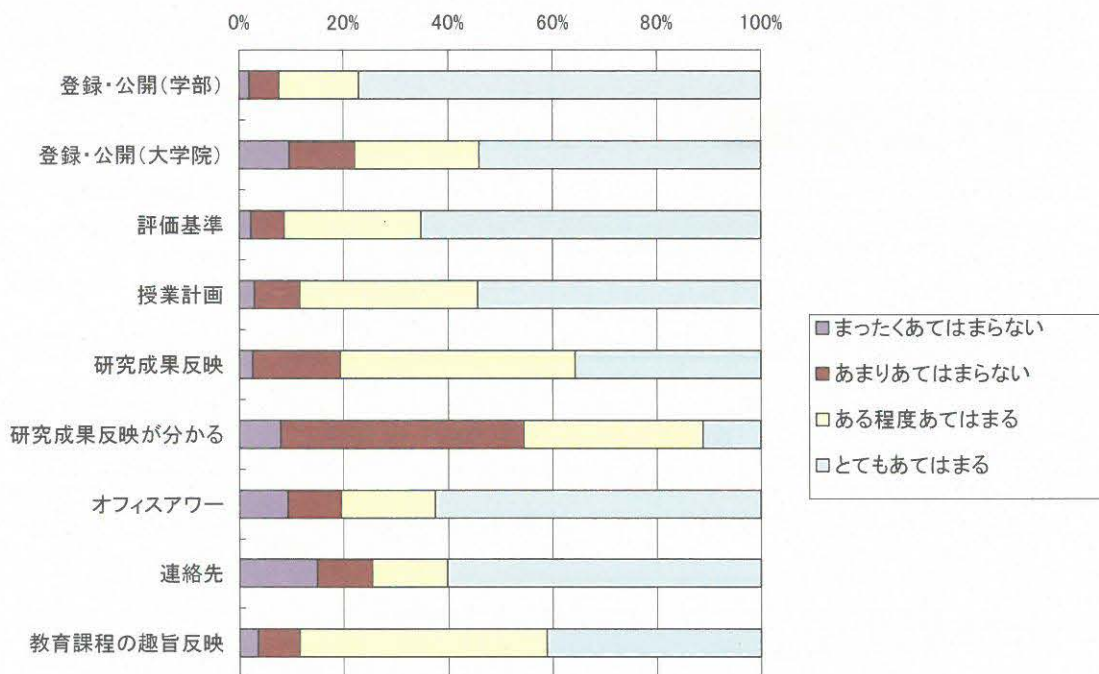


図 4-4 シラバスについて

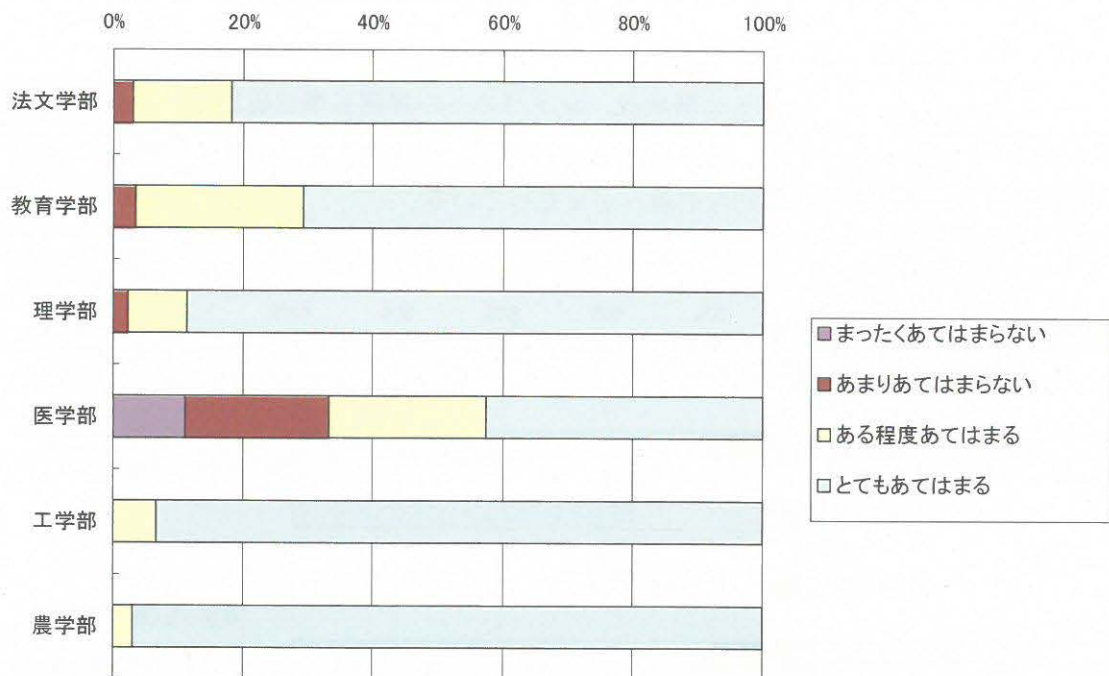


図 4-5 シラバスの登録・公開状況

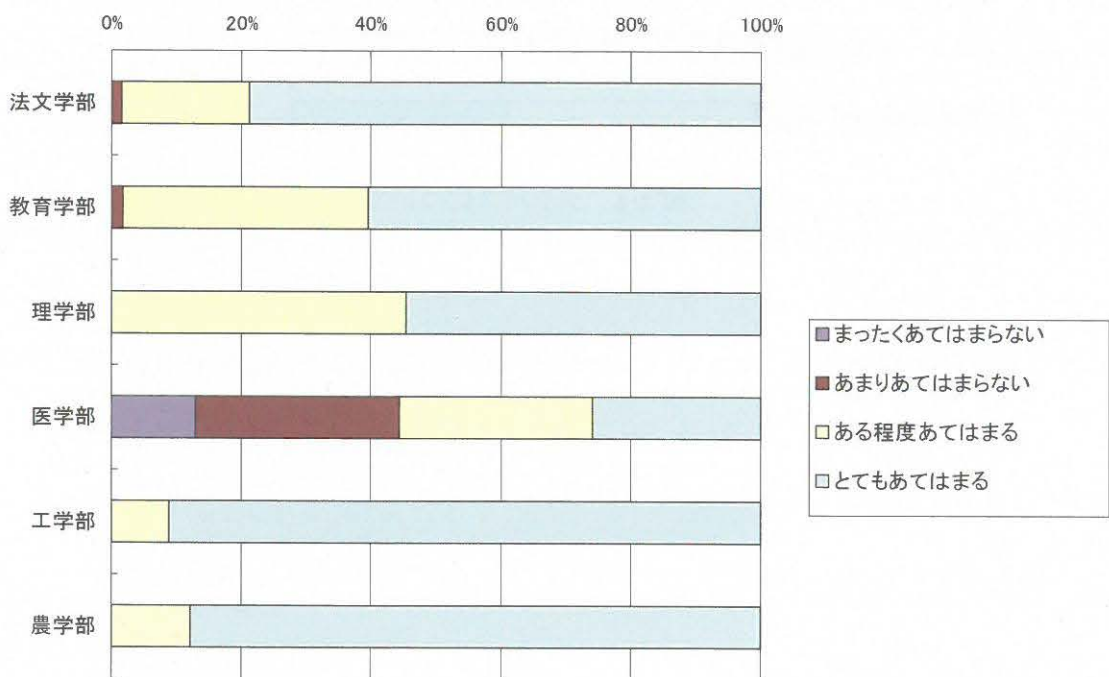


図 4-6 評価基準の記載状況

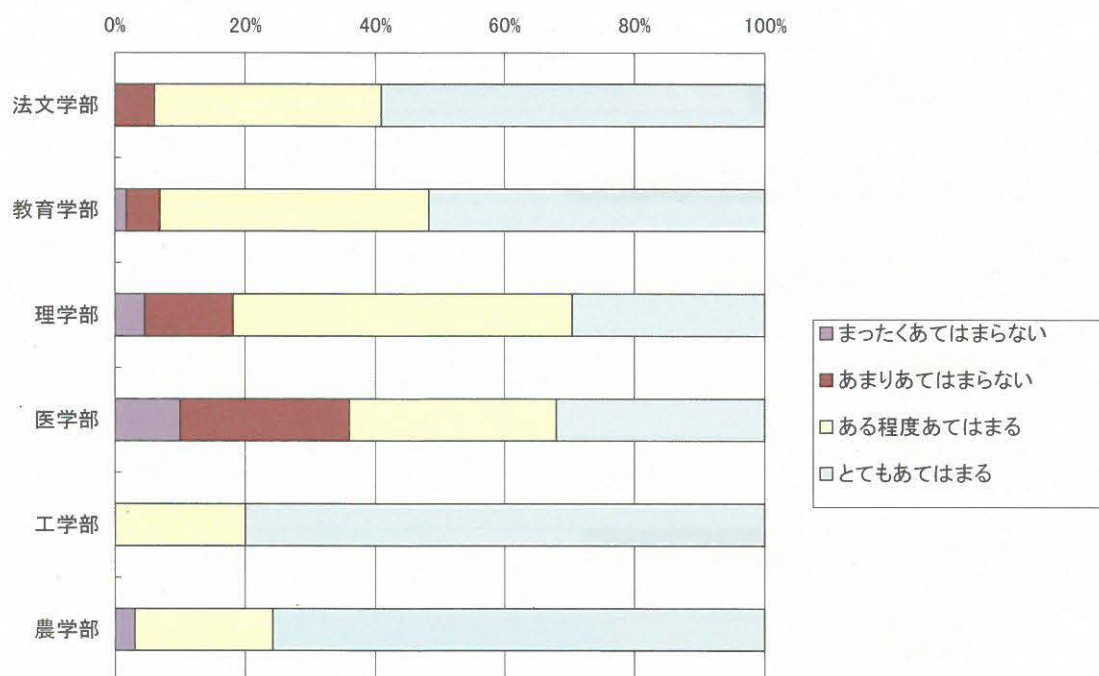


図 4-7 授業計画の記載状況

(3) FD

過去 3 年間に学内で開催された教育内容・方法にかんするFDへの参加状況を尋ねたところ、全体では半数以上が全く参加していないことが分かった(図 4-8)。部局別にみると、工学部と法文学部所属の教員が積極的に参加していることがうかがえる。

次に、上記FDへの参加経験のある教員に対して、自身の教育活動の改善に役立つような内容のFDであったかを尋ねた結果が図 4-9 である。全体では 7 割以上が「とても役立つ」あるいは「ある程度役立つ」と回答している。

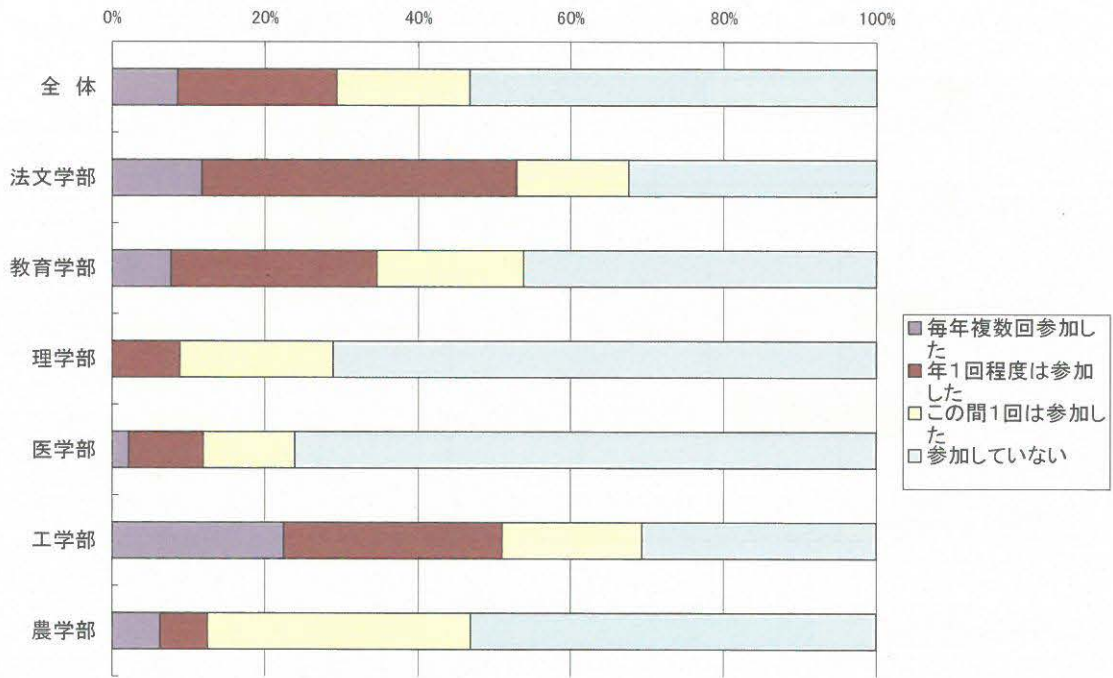


図 4-8 過去3年間の学内FDへの参加状況

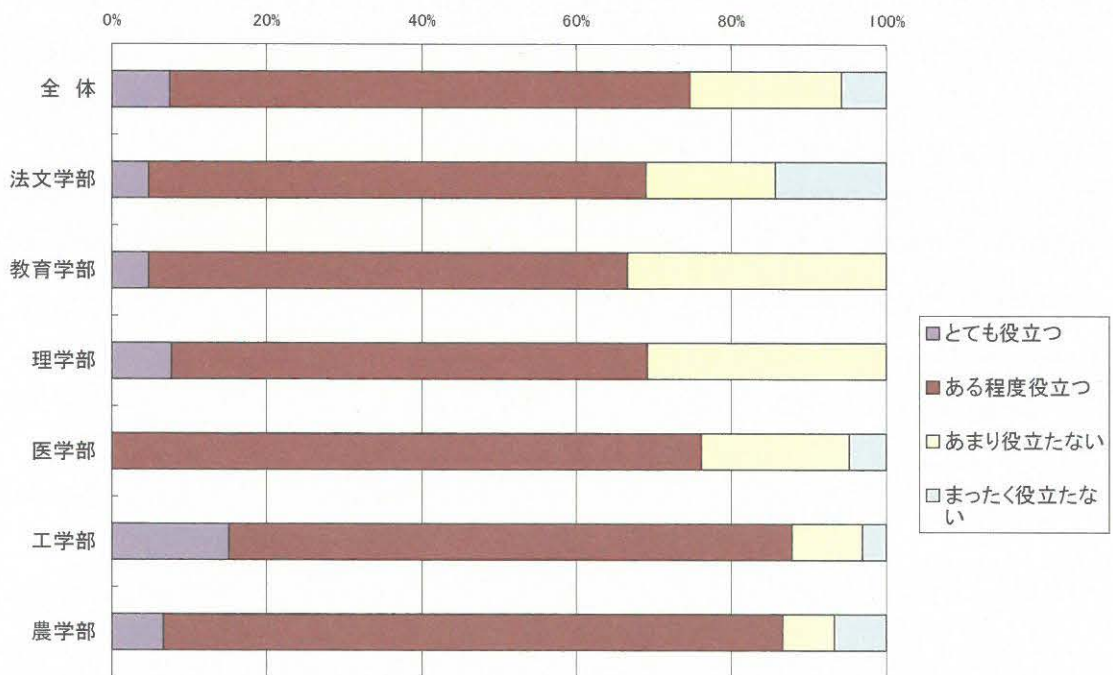


図 4-9 参加したFDは役立つ内容であったか